

日本結核病学会近畿支部学会

—— 第106回総会演説抄録 ——

平成22年12月11日 於 大阪国際会議場（大阪市）

（第76回日本呼吸器学会近畿地方会と合同開催）

会 長 一 ノ 瀬 正 和（和歌山県立医科大学内科学第三講座）

—— 一 般 演 題 ——

1. 肺結核治療軽快中に出現した胸膜結核腫の1例

岡本裕子・望月吉郎・中原保治・河村哲治・佐々木信・守本明枝・水守康之・塚本宏壮・真弓哲一郎・宮川倫子・田畑寿子・渡部悦子・横山俊秀・三村一行・勝田倫子・鏡 亮吾・大西康貴（NHO姫路医療センター呼吸器）

27歳女性。右中肺野肺結核治療開始3カ月後に4cm大の右肺底部胸膜に接する腫瘤が出現。経皮生検で抗酸菌は認めなかったが、壊死を伴う類上皮細胞肉芽腫を認め胸膜結核腫と診断。結核治療を継続し腫瘤は縮小した。

2. 肺結核治療後に発症した Leber 遺伝性視神経症の1例

張 孝徳・瀬戸瑠里子・小林裕介・酒井茂樹・中村敬哉・江村正仁（京都市立病呼吸器内）金光禎寛（高槻赤十字病）

症例は60歳男性で肺結核治療中に急速な視力の低下を認め、遺伝子検査で Leber 遺伝性視神経症と診断された。エタンブトールの投与が発症の引き金と推測され、文献的考察を交えて報告する。

3. 頸部リンパ節結核に併発した頸椎カリエスの1例

金田俊彦*・木田陽子・金子正博・藤井 宏・富岡洋海（神戸市立医療センター西市民病呼吸器内）西口 滋（同整形外科*）

症例は63歳女性。2010年2月、左頸部リンパ節腫脹を主訴に当院受診。精査の結果、頸部リンパ節結核と診断。その後の治療経過中に頸椎カリエスの併発を認めた1例について報告する。

4. 当院における気管支結核症の2例

白石 訓・高木彩佳・洲鎌芳美・川口 俊（大阪市立十三市民病）

当院で6年間に気管支結核症を2例経験した。いずれも若年女性で気管支狭窄の評価には3D-CTが有用であった。2名は抗結核剤治療のみで狭窄が軽減し、手術等の侵襲的治療は行わなかった。文献的考察と併せて報告する。

5. INHによる潜在性結核治療にもかかわらずインフリキシマブ投与中頸部リンパ節結核を発症したクローン病症例

池上達義・多木誠人・村瀬博紀・古家聖子・杉尾裕美・中川 淳・古田健二郎・森田恭平・杉田孝和・堀川禎夫・西山秀樹（日本赤十字社和歌山医療センター呼吸器内）谷口洋平（同消化器内）

症例はクローン病の41歳女性。インフリキシマブ投与に際しクォンティフェロン陽性にてイソニアジドを6カ月間投与、その1年後に頸部リンパ節結核を発症した。組織の結核菌 PCR 陽性であったが培養は得られなかった。

6. 神戸市中央区での接触者健診における QFT 検査の現状

藤山理世*（神戸市中央区保健福祉部）水尻節子・白井千香・樋口純子・河上靖登（神戸市保健所*）岩本朋忠（神戸市環境保健研究所）

神戸市中央区はJRの三ノ宮・元町・神戸駅、官公庁・オフィス街・繁華街・港湾・空港等を有す。平成21年罹患率は40.8（神戸市26.2）。昼間人口が多く、接触者健診の依頼が多い。平成21年のQFT検査実施状況を報告する。

7. 両肺野の孤立性多発結節影を呈した肺結核の2例

立川 良・松本 健・門田和也・竹下純平・田中広祐・永田一真・南條成輝・大塚今日子・大塚浩二郎・林三千雄・富井啓介（神戸市立医療センター中央市民病呼吸器内）

症例は46歳と80歳の女性。両症例とも散布影を伴わない肺野の孤立性多発結節影で紹介受診となった。肺結核としては非典型的な所見で、悪性リンパ腫などが疑われたが、気管支鏡検査で肺結核と診断された。

8. *Mycobacterium abscessus* とその近縁菌 *Mycobacterium massiliense* および *Mycobacterium bollettii* との鑑別

吉田志緒美・露口一成・岡田全司（NHO近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター）鈴木克

洋・林 清二（同内）富田元久（同臨床検査）斎藤
肇（広島県環境保健協会）

M. abscessus と近縁菌 *M. massiliense*, *M. bolletii* は DDH で
すべて *M. abscessus* と判定される。今回上記3菌種の鑑
別と *M. massiliense* 皮膚感染症の集団感染事例検証のため
環境由来菌との遺伝子型別を行った。

**9. 抗結核薬で一旦軽快したが膿胸関連リンパ腫を発
症した人工気胸治療歴のある慢性結核性膿胸の1例**

°松永仁綜・池田宗一郎・玉舎 学・吉田修平・坂東
園子・藤田一彦・高須太郎・後藤 功・花房俊昭（大
阪医大呼吸器内）米谷 昇（同血液内）

79歳女性。23歳頃結核で人工気胸術の既往。左胸痛で
受診し陳旧性膿胸に接して腫瘤影を認めたが生検では壊
死組織のみ。抗結核剤で腫瘤は消失。治療終了1年3カ
月後に膿胸に接した他部位にB細胞リンパ腫が出現。